

○ 本校の概要

今年度はⅡ期工事も完了するため、新校舎が落成する。生徒は、新校舎という恵まれた環境の下、様々なことに熱心に取り組んでいる。「礼節・自治・勤勉」の校訓を学校経営方針にも明確に位置付け、自主的に物事に取り組める姿勢を育成する働きかけを様々な場面で行う。教員の働き方改革にも着眼し、生徒の成長に資する活動と教員の勤務のバランスを考え、改善できるところを検討する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン 1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	生徒の80%以上が、「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と答えた。	4:	英語の授業においては常にペアワークなどの小グループの活動を入れ、コミュニケーション能力の育成に努めた。 「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と肯定的に答えた生徒の割合が78.2%だった。昨年度より12.9ポイント下降している。 本校の教員は「話し合い活動」をよく取り入れて授業を行っているが、教科間で担当教師によって差異があるの、で、「小さな言語活動」として、数分の小グループでの意見交換を頻繁に取り入れることを充実させる。自分からの発信をすることを通して、考えを深めることを目指す。	A	6	・生徒が自分で発表できる機会があると能力が発揮できると思います。 ・グループ活動や対話でのコミュニケーション等はまだまだコロナの影響でやりずらかったと思います。そんな中でも取り組むと努力していただき、ありがとうございます。 ・取組(ねらい)と子供達の考えが違っているのではないのでしょうか。 ・他者の感情を互い知るようなコミュニケーションができますように。 ・これまでの取組、今後の対応を拝見すると良い成果が期待できると思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのもののづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	生徒の60%以上が、「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と答えた。	3:		B	5	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	生徒の50%以上が、「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と答えた。	2:		C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒の50%未満が、「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と答えた。	1:		D	0	
プラン 2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒の80%以上が、「先生方はICT機器を使い、画像や動画を使い、授業を工夫している」と答えた。	4:	「ICT機器を使い、画像や動画を入れて授業を工夫している」と肯定的な答えをした生徒が73.6%であった。昨年度から20.1ポイント下降した。ICT支援員を積極的に活用する教員が多かったが、支援員が変わったことで教科への授業が減り、積極的に行う教員が減ったことも原因として考えられる。 ICT支援員から、提案を積極的にに行ってもらうよう、働きかけ、本校のICTやタブレットの活用率を上げる必要がある。タブレットについては、次年度、経営支援部で研究のテーマを決め、授業で取り入れる機会を増やせるようにする。	A	4	・学校公開に行ったとき、あるクラスでICT機器が動かずに予定を変更して授業をしていました。事前チェックや動かない時の対処方法等も必要かと思いました。 ・タブレットの利用を家庭で行っているようにあまり見られせん。 ・支援員の大幅な増員が必要と思います。 ・数値の下降ポイントより、支援員含め、検討されていると思いますが、教室での検討も大切だと思います。生徒さんへの工夫も必要かと思っています。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	生徒の60%以上が、「先生方はICT機器を使い、画像や動画を使い、授業を工夫している」と答えた。	3:		B	6	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3	生徒の50%以上が、「先生方はICT機器を使い、画像や動画を使い、授業を工夫している」と答えた。	2:		C	1	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒の50%未満が、「先生方はICT機器を使い、画像や動画を使い、授業を工夫している」と答えた。	1:		D	0	
プラン 3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	生徒の80%以上が、「毎日の学校生活が楽しい」と答えた。	4:	「毎日の学校が楽しい」と肯定的に答えた生徒が73.6%であった。「先生方は相談に応じてくれる」と肯定的に回答した生徒が67.4%であった。「自分にはよいところがあると思う」に肯定的に答えた生徒は、56.5%であった。 「私は学校の決まりを守っている」と肯定的に答えたが74.8%であった。昨年度の数値からいずれの項目も9.4%・16.7ポイント下降している。生徒の変化に注目しながら、教員の働きかけや生徒を受け入れる姿勢をもつように学校生活を充実させながら、自己肯定感を更に高めていきたい。	A	5	・生徒が自分自身に自信が持てるように指導してほしい。 ・こちらもコロナ禍なので世の中全体が重く暗くなっている影響だと思います。将来はともて明るいと思えるような道徳の授業、よろしくお願いします。 ・先生に認めてもらうにはどうしたらよいのか子供達は考えていますが、あまり先生方にそれを見てもらう機会が少なく感じます。 ・生徒の心の状況を感じ取る感受性を発揮されますように。 ・生徒達の自己肯定感を向上させるのはなかなか難しさがありまね。これでもいいのかな？が少しでもあるのかもかもしれません。生徒一人一人にそれぞれ個性がありますことを先生方はよくお分かりと存じます。先生の「これいいね!」のちよとした一言で生徒はこれでもいいのかと気付くのではないのでしょうか。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3	生徒の60%以上が、「毎日の学校生活が楽しい」と答えた。	3:		B	6	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒の50%以上が、「毎日の学校生活が楽しい」と答えた。	2:		C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	生徒の50%未満が、「毎日の学校生活が楽しい」と答えた。	1:		D	0	
プラン 4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒の80%以上が、「授業や活動を通して体力がついている」と答えた。	4:	「週に6時間以上体を動かしている」と肯定的に答えた生徒の割合が54%であった。 「授業や活動を通して体力が付いている」と肯定的に答えた生徒が64%であり、昨年度より12.8ポイント下降している。 本校の校庭での工事は8月で終わり、9月からは校庭での体育の授業や部活動も再開している。休めかわらず、昨年度より体力が付いているという意識が下降しているの、で、体育の授業を中心に体力づくりの意識を育てるようにする。	A	5	・これもコロナで自宅から出ない影響ですね。コロナが落ち着けば回復すると思います。 ・部活は一生涯命に代わるものかもしれません。 ・力を入れる体育より力を抜く体育が大事だと思います。 ・校舎改修ともコロナ禍でもありました。今後の改善策にも記載がありますので、よろしくお願いします。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒の60%以上が、「授業や活動を通して体力がついている」と答えた。	3:		B	5	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒の50%以上が、「授業や活動を通して体力がついている」と答えた。	2:		C	1	
		保健体育の授業で準備体操後、補強運動(持久力を補う筋力トレーニング)を行う。	4:体育の全授業で行った。 3:体育の80%以上の授業で行った。 2:体育の60%以上の授業で行った。 1:体育の60%未満の授業で行った。	4	生徒の50%未満が、「授業や活動を通して体力がついている」と答えた。	1:		D	0	
プラン 5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒の80%以上が「先生方は熱心に指導してくれる」と答えている。	4:	「先生方は熱心に指導してくれる」と肯定的に答えた生徒が72.8%で昨年度より17.5ポイント下降した。保護者のアンケートからは「学校施設は安全が確保されている」と答えた割合が65.9%となり、21.4ポイント下降した。 新校舎が2月に完成し、恵まれた環境で生徒も生活しているが、保護者が安心して過ごしている、と感じる割合が減少しているの、で、生活指導にも力を入れ、生徒が安心して学校生活を送れるように指導していく。 授業公開についての保護者の感想は肯定的な評価が多かった。引き続き、次年度も学校公開の場を設定する中で、保護者のアンケートを多く回収できるように努めていく。	A	4	・熱心だが、一方通行の先生がいます。土日だからなのか、東門がいつも開いているし、この間は教員室に誰もいないのに鍵が開いていて鍵をとりに入れた。 ・先生と保護者との接点がありません。学校を自身で面白く思うことが重要。 ・校舎改修ともコロナ禍でもありました。今後は感染対策等も緩和されて参りますので引き続きよろしくお願い致します。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3	生徒の60%以上が「先生方は熱心に指導してくれる」と答えている。	3:		B	6	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒の50%以上が「先生方は熱心に指導してくれる」と答えている。	2:		C	1	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行なった。 3:学期に2～3回行なった。 2:学期1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3	生徒の50%未満が「先生方は熱心に指導してくれる」と答えている。	1:		D	0	
プラン 6 なつて学校とも、家庭・地域が一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3	保護者の80%以上が「学校は学校行事などに地域の協力を得ている」と答えている。	4:	保護者のアンケートで「学校からの通信に、保護者の知りたい情報が盛り込まれている」に肯定的な回答をした割合が61.7%で、28.8%下降した。 「保護者に対し、丁寧に説明や対応をしている」と答えた割合が60.7%であり、29.9ポイント下降した。 地域ボランティアについては、コロナ禍であって、PTAの協力で「鶴の木ストリートキャンパ」や「地域清掃」の場を設けていただき、多くの生徒が参加した。 学校支援本部「スマイルセブン」は行事の見守りをして下さったり、職業人講話の人材を紹介してくださったり、図書館ボランティアを行ったりと、例年と同様に大きく貢献してくださった。 PTAには今年度新しく「P-セブン」の取組を開始していただいた。再登校が必要な生徒の居場所をつくり、生徒の見守りをPTAがしてくださること、再登校しやすい部活動に参加できるようにした。完全ボランティア制のPTA活動のため、広報活動も活発で、より質の高い広報誌となった。次年度もボランティア制を維持し、PTAの負担を	A	5	・全般アンケート結果に一喜一憂せず、落ち着いた生徒に対してください。 ・コロナ禍で地域と混じわえるチャンスが少なかったと思います。 ・コロナの影響で学校からの発信や地域でのイベントがやりずらかったと思います。この先に対策しながらいろいろな活動ができるはずです。楽しみにしています。 ・PTA役員として聞かれる先生が限られていて相互理解に時間がかかったり、やりにくさを感じます。地域教育連絡協議会ではこのアンケートのお話があったのでしょうか。詳しくお話を聞えなかったのでもっと役員として関わることがあるのかもれないと思うと地連協に出席できないのは残念です。 ・同意会はいつも学校の応援団です。必要なことをお伝えください。 ・工事期間、コロナ禍で過ごしており、それぞれが不安の中で生活していました。その中で学校報告は大変だったと思います。保護者様の知りたい情報とは何だったのか分析はされました。新学年を迎え、これからまた新たな出発となります。地域もこれからのいろいろな協力を行いたいと考えます。引き続きよろしくお願い致します。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な情報の提供を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	保護者の60%以上が「学校は学校行事などに地域の協力を得ている」と答えている。	3:		B	6	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行なった。 2:年1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3	保護者の50%以上が「学校は学校行事などに地域の協力を得ている」と答えている。	2:		C	0	
		生徒に地域行事や地域の幼稚園・児童館などの行事・校内落ち葉掃きボランティアへの参加活動を奨励し、参加した生徒が成就感を味わえるよう取り組んでいく。	4:90%以上の生徒がが成就感を感じた。 3:70%以上の生徒がが成就感を感じた。 2:50%以上の生徒がが成就感を感じた。 1:成就感を感じた生徒が50%未満だった。	3	保護者の50%未満が「学校は学校行事などに地域の協力を得ている」と答えている。	1:		D	0	
		地域の方にも自ら進んで挨拶をするよう、指導する。	4:80%以上の生徒が行っている。 3:60%以上の生徒が行っている。 2:50%以上の生徒が行っている。 1:50%未満の生徒しか行っていない。	3						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。